

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成23年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを一番に考えながら、外出行事を行っている。また生活リハビリにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの居間は明るく、季節を感じる手作りの物が壁に飾られ、掃除も行き届いており清潔感が感じられる。管理者と職員は理念を共有し利用者の日々の生活を支えており、利用者は穏やかに自分のペースで自由に過ごされている。希望するかかりつけ医の受診をできるよう支援したり、看護師と契約し週に2~3回訪問してもらっている。町内会に入会し地域の清掃活動にも参加する等地域の一人としての役割も担っており、秋祭りにはお神輿も来てもらっている。散歩時には近所の方と挨拶したり、野菜や花をおすそ分けしてもらうこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 太陽

記入者(管理者)

氏名 八雲 美恵子

評価完了日 23年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者一人一人の思いを大切にし、日々地域との信頼関係を築いていけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時の理念について職員で話し合いを行い、現在の理念になっている。管理者や職員は理念を共有して利用者の日々の生活を支えている。利用者が穏やかに自分のペースで過ごされている事からも、その事がうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年間を通じて町内行事や地域清掃に参加したり、散歩中の挨拶や会話をもち交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 町内会に入会し清掃活動等、町内会の一員としての役割を担っている。地域の行事には、利用者の状態により全員の参加はできていないが、秋祭りの神輿はホームに来てもらっている。近所の人野菜や花を持ってきてくれたり、散歩時にはあいさつを交わす関係はできている。また、他の事業所と合同でセミナーを開催している。</p>	地域との交流をさらに深めるためには、ホーム側からの働きかけも必要となってくる。セミナーの開催を今後も継続したり、地域の自主防災についても情報を得て協力関係を築く等の働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議などで、民生委員から地域の現状を伺い相談などにも出来る限り応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、ホームでの取組みや状況を報告し、意見交換をし運営に反映するように努めている。	
			(外部評価) 地域の住民には声かけを行い参加してもらえるよう依頼しているが日程や開催の時間帯が合わず、地域の住民の参加が民生委員だけとなっている。また、利用者や家族の参加も得られていない。内容としては、行事報告、勉強会、意見交換等行われている。	利用者が地域の中で生活するためには地域の協力は必要であり、町内会長や老人会長等への参加依頼を継続して行って欲しい。地域の方が多く参加することにより、さらに地域の様々な情報が得られたり、意見交換も活発に行える運営推進会議になるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営推進会議で、相談や情報交換を行い、良い協力関係を築くように努めている。	
			(外部評価) 市の介護保険課より、生活福祉課に連絡する事の方が多。介護保険課の職員は2か月に1回運営推進会議に参加してもらっているのもその時に相談している。日頃の分からない事等は包括支援センターに聞いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の安全を考えながら、必要に応じて家族にも相談し、スタッフ間で共有しながら、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束についてはマニュアルを作成しており、勉強会を行う等職員は理解している。玄関の鍵は掛けられていないが、ユニットの入り口は安全の為施錠している。利用者の外出に対しては見守りながら対応している。言葉かけについては、気が付いた時に職員同士で注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会や勉強会で取り上げ虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個々に必要性があれば、その都度話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ前にしっかり説明を行い、十分に理解・納得をしてもらうように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見は日々聞けるように努力しており、意見箱も設置している。 (外部評価) 利用者には日頃の生活の場で聞いている。意見箱も設置しているが、家族が訪問時に職員に直接言うことが多い。その場で解決できない場合は、職員で話し合いをしている。訪問が少ない家族については、電話で連絡をした時などに聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議等で意見や提案を聞く機会を設け、出来る限り反映させている。	
			(外部評価) 3年以上の職員も多くおり、日頃から管理者に対して気軽に意見が言える関係が構築されている。また、管理者も職員の意見をよく聞き、利用者のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り職場環境の整備や福利厚生の実現に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や試験等の案内は回覧出来るようにしており、研修を受講し易いように勤務の調整も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や交流会に参加し、交流をするようにしているが相互訪問等は出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約する前に事前面接を行い、要望や不安なことなど出来る限り話し合いをするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約する前に、家族等の意見を聞く機会も設けおり、状況の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族等から情報提供してもらい、本人の立場に立って対応していくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 互いに協力し、できる事を手伝ってもらい、出来ない事を手伝いながら、信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの状況は随時家族に伝えるようにしており、相談や報告をし、共に支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 家族にお願いして、本人の要望に添えるように努めている。 (外部評価) 利用者の身体機能の低下等により、今までの馴染みの関係が難しくなってきたが、入居前の関係を続けている利用者や、古くからの友人と交流を続けている利用者もおり、支援している。また回覧板を利用者が持つて行くことにより近隣との馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を考慮し、共に支え合えるような支援を心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じ相談・支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の担当職員を中心に全職員が共通認識を持って、本人の意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者や家族に聞くこともあるが、利用者のその日の状態や表情など把握して支援している。利用者とは1対1になる入浴時には、本音が聞ける事が多い。把握した情報は、申し送り等で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族にお願いし、本人からも話を聞き、出来る限り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表やケアプランを作成して、日々の状況に変化があった場合は記録し、職員全員が把握出来るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを行い、本人・家族・職員で話し合い出来るだけ現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族から希望を聞いたり、担当の職員の意見を聞いたりしながら一人ひとりに合った計画を作成している。モニタリングは担当の職員が行い、カンファレンスで話し合っている。3か月毎に見直しを行っており、計画を作成する時や変更する時は、家族に報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら出来るだけ実践や介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 出来る限り豊かな暮らしを楽しむように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族等の希望を出来るだけ大切にしており、協 力医療機関で適切に医療が受けれるように支援してい る。	
			(外部評価) 利用者の希望のかかりつけ医を支援している。受診は 家族がしているが、かかりつけ医によっては往診もし てくれる。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、受 診は職員が行っている。看護師と契約をしており週に 2～3回健康チェックをしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の体調の変化や気付きは個人ファイルに記録して おり、看護師には口頭でも申し送りをし、適切な看護 を受けれるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは、常に情報交換・相談を行っておりス ムーズに対応出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については本人・家族等に十分に説明を行い、 理解してもらうようにしており、関係者と共に支援に 取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に看取りについて説明を行っている。利用者や 家族が希望し、ホーム内で看取る事が可能であれば看 取る方針としている。今までに3回看取りを経験して おり、状況の変化に応じてその都度話し合いを行い、 ケアを実践している。職員は看取りについて勉強会も 行なっている。	3回の看取りの経験を活かしマニュアルを新しい職員 の為にも作成する事を期待したい。利用者の終末期に おけるケアは個人により違いがあり、研修への参加、 勉強会等継続した教育を行う事を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルを作り、冷静かつ的確に対応出来るように備えている。また、職員は救急講習を受けており実践力を身につけるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の非難訓練は、消防署の指導の下定期的に行っており、全職員が身につけている。 (外部評価) マニュアルを作り、年2回定期的に訓練を行っている。1回は消防署の協力を得て行き、夜間想定した訓練も行っている。訓練の後は職員で話し合いを行い、次の訓練に活かすようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の人格を尊重した、声掛けや対応をするようにしている。出来ていない時はスタッフ間で注意し合える環境を作り日々努力している。 (外部評価) 声かけについては、職員会でも話し合いを行い、気が付いた時には注意し合っている。利用者一人ひとり尊重する気持ちを持ち、馴れ馴れしい声かけにならない様気をつけている。明るい職員が多く、自然な声かけができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話や要望を出来る限り、傾聴し、想いをひきだすように努め、本人が自分で選択できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの1日の流れは決まっているが、その中で幅をもたせ、利用者のペースに合わせて本人の希望に添うように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせて身だしなみやおしゃれができるように支援している。月1回美容師が来所しており、本人の希望により利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を決める時、利用者に食べたい物を聞いたり、季節の物を考えたりして、楽しみとなるように支援している。また、利用者のレベルに応じてできる事を手伝ってもらえるように努めている。	
			(外部評価) 利用者は下ごしらえ等できることは職員と一緒にやっている。利用者の希望を聞いて献立を立てているためユニットでメニューが違う。利用者に合わせて刻み食にもしており、盛り付けも工夫している。職員も一緒に利用者の側に座り、さりげなく介助しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えた献立をたて、食事量・水分量も確保できるように、調理法を工夫したり、声掛けにも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後全員口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認するように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、その人に合った声掛け・トイレ誘導などで支援している。	
			(外部評価) 利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握して、支援している。オムツ使用の人も昼間はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は自分で行ける人は見守りで対応し、オムツ使用の人に対しては時間を見て訪室して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫をしたり、水分摂取量を確保出来るように、個々に応じた対応をしている。主治医とも相談し、予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に応じた支援をするように、心がけている。	
			(外部評価) 入浴は午後からになっており、週3回は入れるよう支援している。希望すれば毎日でも入る事ができる。入浴が苦手な利用者に対しては、無理強いをすることなく声かけを工夫したり、日を変える等気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用・用法・用量について、職員会などで勉強している。服薬ミスの無いうように全職員気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備・掃除・洗濯物たたみ等利用者の能力に合わせて、生活リハビリ行っている。おやつ作りなどで、一緒に楽しむ機会をつくっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や、買い物などには出かけている。家族に依頼したり、本人希望の外出行事に取り組んでいる。	
			(外部評価) 年間の行事の計画を立て外出を支援しているが、全員で出かける事が困難になってきている。ユニット毎や数名で出かける事が多くなってきているが、利用者の希望によって、買い物や外食、天気の良い日には散歩等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に協力依頼し、いつでも声が聞けるような体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過せるように、支援している。	
			(外部評価) 居間には畳の部分も確保されており、室温も適温に保たれ、明るい空間づくりがされている。壁には季節を感じる飾りがあり、カレンダーも手作りのものが飾られている。利用者は自分の好みの場所で、利用者同士お喋りしたり、テレビを見たり、自由に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士談話できるように、座席の配慮をし、時折席替えをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族が思うような部屋作りが出来るように、一緒に考え居心地の良い部屋になるよう工夫している。	
			(外部評価) 部屋の中には押入れがあり、整理整頓された部屋になっている。家庭から使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、壁の飾りも利用者に合わせ、家庭にいるような雰囲気づくりがされている。落ち着いて過ごせる様に、置き場所も工夫されており、その人らしい個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人の自立を妨げる事のないよう安全な環境づくりに努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成23年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを一番に考えながら、楽しい食事が出来るように献立や栄養に気を配っている。また生活リハビリにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの居間は明るく、季節を感じる手作りの物が壁に飾られ、掃除も行き届いており清潔感が感じられる。管理者と職員は理念を共有し利用者の日々の生活を支えており、利用者は穏やかに自分のペースで自由に過ごされている。希望するかかりつけ医の受診をできるよう支援したり、看護師と契約し週に2~3回訪問してもらっている。町内会に入会し地域の清掃活動にも参加する等地域の一人としての役割も担っており、秋祭りにはお神輿も来てもらっている。散歩時には近所の方と挨拶したり、野菜や花をおすそ分けしてもらうこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 大地

記入者(管理者)
氏名 八雲 美恵子

評価完了日 23 年 6 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者一人一人の思いを大切にし、日々地域との信頼関係を築いていけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時の理念について職員で話し合いを行い、現在の理念になっている。管理者や職員は理念を共有して利用者の日々の生活を支えている。利用者が穏やかに自分のペースで過ごされている事からも、その事がうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年間を通じて町内行事や地域清掃に参加したり、散歩中の挨拶や会話をもち交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 町内会に入会し清掃活動等、町内会の一員としての役割を担っている。地域の行事には、利用者の状態により全員の参加はできていないが、秋祭りの神輿はホームに来てもらっている。近所の人野菜や花を持ってきてくれたり、散歩時にはあいさつを交わす関係はできている。また、他の事業所と合同でセミナーを開催している。</p>	地域との交流をさらに深めるためには、ホーム側からの働きかけも必要となってくる。セミナーの開催を今後も継続したり、地域の自主防災についても情報を得て協力関係を築く等の働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議などで、民生委員から地域の現状を伺い相談などにも出来る限り応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、ホームでの取り組みや状況を報告し、意見交換をし運営に反映するように努めている。	
			(外部評価) 地域の住民には声かけを行い参加してもらえるよう依頼しているが日程や開催の時間帯が合わず、地域の住民の参加が民生委員だけとなっている。また、利用者や家族の参加も得られていない。内容としては、行事報告、勉強会、意見交換等行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営推進会議で、相談や情報交換を行い、良い協力関係を築くように努めている。	
			(外部評価) 市の介護保険課より、生活福祉課に連絡する事の方が多い。介護保険課の職員は2か月に1回運営推進会議に参加してもらっているのもその時に相談している。日頃の分からない事等は包括支援センターに聞いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の安全を考えながら、必要に応じて家族にも相談し、スタッフ間で共有しながら、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束についてはマニュアルを作成しており、勉強会を行う等職員は理解している。玄関の鍵は掛けられていないが、ユニットの入り口は安全の為施錠している。利用者の外出に対しては見守りながら対応している。言葉かけについては、気が付いた時に職員同士で注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会や勉強会で取り上げ虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個々に必要性があれば、その都度話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ前にしっかり説明を行い、充分に理解・納得をしてもらうように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見は日々聞けるように努力しており、意見箱も設置している。 (外部評価) 利用者には日頃の生活の場で聞いている。意見箱も設置しているが、家族が訪問時に職員に直接言うことが多い。その場で解決できない場合は、職員で話し合いをしている。訪問が少ない家族については、電話で連絡をした時などに聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議等で意見や提案を聞く機会を設け、出来る限り反映させている。	
			(外部評価) 3年以上の職員も多くおり、日頃から管理者に対して気軽に意見が言える関係が構築されている。また、管理者も職員の意見をよく聞き、利用者のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り職場環境の整備や福利厚生の充実に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や試験等の案内は回覧出来るようにしており、研修を受講し易いように勤務の調整も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や交流会に参加し、交流をするようにしているが相互訪問等は出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約する前に事前面接を行い、要望や不安なことなど出来る限り話し合いをするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約する前に、家族等の意見を聞く機会も設けおり、状況の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族等から情報提供してもらい、本人の立場に立って対応していくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 互いに協力し、できる事を手伝ってもらい、出来ない事を手伝いながら、信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの状況は随時家族に伝えるようにしており、相談や報告をし、共に支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族にお願いして、本人の要望に添えるように努めている。 (外部評価) 利用者の身体機能の低下等により、今までの馴染みの関係が難しくなってきたが、入居前の関係を続けている利用者や、古くからの友人と交流を続けている利用者もあり、支援している。また回覧板を利用者が持つて行くことにより近隣との馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を考慮し、共に支え合えるような支援を心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じ相談・支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の担当職員を中心に全職員が共通認識を持って、本人の意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族に聞くこともあるが、利用者のその日の状態や表情など把握して支援している。利用者との1対1になる入浴時には、本音が聞ける事が多い。把握した情報は、申し送り等で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族にお願いし、本人からも話を聞き、出来る限り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表やケアプランを作成して、日々の状況に変化があった場合は記録し、職員全員が把握出来るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを行い、本人・家族・職員で話し合い出来るだけ現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族から希望を聞いたり、担当の職員の意見を聞いたりしながら一人ひとりに合った計画を作成している。モニタリングは担当の職員が行い、カンファレンスで話し合っている。3か月毎に見直しを行っており、計画を作成する時や変更する時は、家族に報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら出来るだけ実践や介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 出来る限り豊かな暮らしを楽しむように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族等の希望を出来るだけ大切にしており、協 力医療機関で適切に医療が受けれるように支援してい る。	
			(外部評価) 利用者の希望のかかりつけ医を支援している。受診は 家族がしているが、かかりつけ医によっては往診もし てくれる。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、受 診は職員が行っている。看護師と契約をしており週に 2～3回健康チェックをしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の体調の変化や気付きは個人ファイルに記録して おり、看護師には口頭でも申し送りをし、適切な看護 を受けれるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは、常に情報交換・相談を行っておりス ムーズに対応出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については本人・家族等に十分に説明を行い、 理解してもらうようにしており、関係者と共に支援に 取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に看取りについて説明を行っている。利用者や 家族が希望し、ホーム内で看取る事が可能であれば看 取る方針としている。今までに3回看取りを経験して おり、状況の変化に応じてその都度話し合いを行い、 ケアを実践している。職員は看取りについて勉強会も 行なっている。	3回の看取りの経験を活かしマニュアルを新しい職員 の為にも作成する事を期待したい。利用者の終末期に おけるケアは個人により違いがあり、研修への参加、 勉強会等継続した教育を行う事を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルを作り、冷静かつ的確に対応出来るように備えている。また、職員は救急講習を受けており実践力を身につけるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の非難訓練は、消防署の指導の下定期的に行っており、全職員が身につけている。 (外部評価) マニュアルを作り、年2回定期的に訓練を行っている。1回は消防署の協力を得て行き、夜間想定した訓練も行っている。訓練の後は職員で話し合いを行い、次の訓練に活かすようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の人格を尊重した、声掛けや対応をするようにしている。出来ていない時はスタッフ間で注意し合える環境を作り日々努力している。 (外部評価) 声かけについては、職員会でも話し合いを行い、気が付いた時には注意し合っている。利用者一人ひとり尊重する気持ちを持ち、馴れ馴れしい声かけにならない様気をつけている。明るい職員が多く、自然な声かけができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話や要望を出来る限り、傾聴し、想いをひきだすように努め、本人が自分で選択できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの1日の流れは決まっているが、その中で幅をもたせ、利用者のペースに合わせて本人の希望に添うように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせて身だしなみやおしゃれができるように支援している。月1回美容師が来所しており、本人の希望により利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を決める時、利用者に食べたい物を聞いたり、季節の物を考えたりして、楽しみとなるように支援している。また、利用者のレベルに応じてできる事を手伝ってもらえるように努めている。	
			(外部評価) 利用者は下ごしらえ等できることは職員と一緒にやっている。利用者の希望を聞いて献立を立てているためユニットでメニューが違う。利用者に合わせて刻み食にもしており、盛り付けも工夫している。職員も一緒に利用者の側に座り、さりげなく介助しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えた献立をたて、食事量・水分量も確保できるように、調理法を工夫したり、声掛けにも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後全員口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認するように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、その人に合った声掛け・トイレ誘導などで支援している。	
			(外部評価) 利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握して、支援している。オムツ使用の人も昼間はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は自分で行ける人は見守りで対応し、オムツ使用の人に対しては時間を見て訪室して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫をしたり、水分摂取量を確保出来るように、個々に応じた対応をしている。主治医とも相談し、予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に応じた支援をするように、心がけている。	
			(外部評価) 入浴は午後からになっており、週3回は入れるよう支援している。希望すれば毎日でも入る事ができる。入浴が苦手な利用者に対しては、無理強いをすることなく声かけを工夫したり、日を変える等気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用・用法・用量について、職員会などで勉強している。服薬ミスの無いように全職員気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備・掃除・洗濯物たたみ等利用者の能力に合わせて、生活リハビリ行っている。おやつ作りなどで、一緒に楽しむ機会をつくっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や、買い物などには出かけている。家族に依頼したり、本人希望の外出行事に取り組んでいる。	
			(外部評価) 年間の行事の計画を立て外出を支援しているが、全員で出かける事が困難になってきている。ユニット毎や数名で出かける事が多くなってきているが、利用者の希望によって、買い物や外食、天気の良い日には散歩等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に協力依頼し、いつでも声が聞けるような体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過せるように、支援している。	
			(外部評価) 居間には畳の部分も確保されており、室温も適温に保たれ、明るい空間づくりがされている。壁には季節を感じる飾りがあり、カレンダーも手作りのものが飾られている。利用者は自分の好みの場所で、利用者同士お喋りしたり、テレビを見たり、自由に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士談話できるように、座席の配慮をし、時折席替えをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族が思うような部屋作りが出来るように、一緒に考え居心地の良い部屋になるよう工夫している。	
			(外部評価) 部屋の中には押入れがあり、整理整頓された部屋になっている。家庭から使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、壁の飾りも利用者に合わせ、家庭にいるような雰囲気づくりがされている。落ち着いて過ごせる様に、置き場所も工夫されており、その人らしい個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人の自立を妨げる事のないよう安全な環境づくりに努めている。	